

- 2面…親子対象講座ほか主催事業、保育付講座を受講希望する方へ
- 3面…田無公民館まつり、市民レビューCD、公民館市民企画事業
- 4面…平成26年度事業計画、公運審コラム、まちがいさがし

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

昨年秋、約二年ぶりにパレスチナを再訪した。季節はちょうどオリブの収穫期。一年に一度の喜びの季節。オリブの実の塩漬は毎日の食卓にのぼり、オリブオイルは料理だけでなく、肌や髪の毛に、ときには薬としても用いられる。

作業は朝から日没まで続く。木の下に大きなシートを広げ、オリブを手で摘んで落としていく。伸びすぎてしまった枝は切り落とし、実をもぎ取っていく。こうしておけば、陽の光がまんべんなくあたり、来年また

大きな実を実らせる。しかし、故郷を追われて難民となった人々は、オリブの木も失ってしまった。ある日、難民キャンプの居候先のお母さんに「オリブをとりに行くよ」と支度をしようというながされた。迎り着いたのは小さな村。オリブの木々を見上げるとすっかり収穫が終わっている。お母さんは、木の下に這いつくばって、落ちて干乾びた実を拾い始めた。地表には棘だらけの植物の持ち主は、木を持たない人

のためにわざとすべてを獲らずに残しておく。一家のお父さんは、2002年キャンプにイスラエル軍が侵攻した際に拘束されて拷問を受けた。それ以来体調を崩し、晩年には自分の足で立つことも、喋ることも出来なくなった。そして昨年46歳の若さで亡くなった。一家の兄弟たちも撃たれ、重傷を負い、何度もイスラエル軍に逮捕されている。パレスチナでは罪を犯していなくても撃たれ、拘束される。昨年兄弟の幼なじみが射殺された。次の



母の決断

～命をつなぐ～

写真家 高橋美香

男の一番の親友だった。お母さんは肉体労働も厭わず一家の家計を支え、病気の夫の介護をし、7人の子どもを育ててきた。いまでは子どもたちも大きくなり、少し楽になった。「昔、長男が10代の後半のころ、思いつめた顔で『母さん、俺が死んでもいいまでも俺のことを覚えていてくれる？何があっても愛していてくれる？』と聞いてきたことがあった。そのころある組織から頻りにあの子に呼び出しがかかるようになっていてピンときた。あの子は自分の命を投げ出そうとしていた。問いただしたけれど何も答えなかった。ただ寂しそうな顔で笑っていた。あの子は兄弟のなかでも一番優しく、繊細で敏感だから、父親が廃人のようにされ、友達を次々と殺され、その絶望感に気持ちの糸が切れそうになっていた」とオリブの実を拾いながらお母さんが話してくれた。

サークル訪問

お母さんたちの人形劇サークル「くまねずら」の活動は、色とりどりの人形が並び、にぎやかな雰囲気満たされます。この日の練習では、新作の脚本をもとに、自分の役の人形の動きをお互い確認しました。「人形から小道具まで、すべて手作りです。文章を書くのが好きな人が脚本を作り、音楽が好きな人が作曲を担当するなど、それぞれの得意分野を生かしています」と代表の川崎さんは話します。



関心をひくには？言葉と配置を練る！

担当者からの講座報告

自分を発信してみよう

ウェブライターとは、インターネット上に公開される文章を仕事として書く人のことです。プロのライターである講師から、現場経験に裏打ちされた知識を学び、テープ起こしの第一人者を招いてインタビューも体験しました。アンケートに「インタビューは緊張した」「レイアウトや校正原稿の実物が参考になった」などの感想があり、受講者がライターとして活躍する日も近いかもしれません。

ウェブライター講座 (2月12日～3月26日) 全4回(保谷駅前公民館)



田無公民館まつりで待っています